

令和4年度 認知症介護実践リーダー研修【職場内実習計画書】

様式1

氏名		班	作成日	令和4年 月 日
所属事業所名			所属先事業種別	
認知症介護経験年数	年	ヶ月	指導者氏名	
実習期間	令和4年 月 日 ~ 令和 年 月 日			

1.自職場における認知症ケア実践上の課題(職場全体)

Blank area for self-employment issues.

2.実習協力者 <<指導対象者>>

協力者	<b>A</b>	性別	男 女	年齢	代	職種	
現事業所の勤続年数		年		か月		資格	
認知症ケア経験年数		年		か月			
研修受講履歴	未受講 ・ 認知症基礎研修 ・ 認知症介護実践者研修 ・ その他(						

実習協力者の選定理由

Blank area for selection reasons.

事業所内のあなたの位置と協力者の関係図

	<p><b>例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 管理者</li> <li>● 自分(介護リーダー)</li> <li>○</li> <li>○ 新人協力者</li> </ul>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

自職場実習中に指導者へ中間報告(11月28日~12月2日)をZOOMで15分ぐらい行う予定ですが、ZOOM環境が整っていますか？

整っている Eメール( ) )  
 整っていない 電話番号( ) ) FAX( ) )

★11月14日にコピー2枚を提出

# 実習スケジュール

様式2

氏名 \_\_\_\_\_

作成日

令和4年

月

日

## 1. 課題解決後の姿・理想とする環境 (理想とする職場環境・職員の姿・利用者の姿)

## 2. 実習終了後の自分の姿(リーダー像)

## 3. 評価方法《評価方法:テスト・面談・アンケート・カンファレンス・観察・質問など》

評価日 令和 年 月 日

## 4. 実習計画

期間・指導目標	具体的な実践内容
<b>1週目</b> 月 日～ 月 日	職場に周知する。協力者の評価をする。(テストや面接)
<b>2週目</b> 月 日～ 月 日	評価結果の分析 共有(様式3記入し協力者と面接)
<b>中間報告 指導者との面談</b> 日時:	【手段】 ZOOM FAXと電話
<b>3週目</b> 月 日～ 月 日	認知症ケア指導計画書の作成
<b>4週目</b> 月 日～ 月 日	計画の実践、協力者と面談、報告書作成

## 5. 指導者の助言

指導者サイン

職場上司確認サイン

# 評 価 表

様式3

受講番号：

受講生氏名：

	評価対象項目	評価対象項目 経験年数・立場で必要な能力	評価結果	
			できている点	改善が必要な点
認知症ケアの知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 認知症に関する昨今の施策の動向や内容</li> <li>○ パーソンセンタード・ケア等の基本理念 等に関する基本的な知識</li> <li>○ 認知症の定義や診断基準</li> <li>○ 原因疾患の種類と特徴、中核症状、薬物療法等についての認知症に関する基礎知識</li> <li>○ BPSDの定義、BPSDの種類と特徴、BPSDに関連する要因の種類と関係、原因疾患別のBPSDの特徴等に関するBPSDに関する基礎知識等</li> </ul>			
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 認知ケアへの目標の設(BPSDへの緩和だけでなく予防を視野に入れた生活目標の重要</li> <li>○ 認知症ケアに必要なアセスメント視点BPSD 種類、程度の評価、発症時の表情、行動、発、発症時の高齢者の状態、低下している認知機能や程度、正常な認知機能、周囲の環境(住環境、刺激等)、他の高齢者、家族、職員等との関係状態や個々の人間関係の特徴過去、現在の生活状況(ADL,目標、活動、生活スタイル、趣味、嗜好等)等</li> </ul>			
介護方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医師、看護師、PT、OT等と協力し、身体的な要因を緩和する等の調整方法</li> <li>○ コミュニケーション方法</li> <li>○ 住環境や刺激の調整方法</li> <li>○ 心理的な安定、健康管理、環境適応の促進、意欲の向上等を実現するための活動機会の提供方法</li> <li>○ 他の高齢者、家族、職員との関係状態に応じた関係性の調整方法等</li> </ul>			
介護評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ BPSDの頻度や重症度の変化</li> <li>○ 高齢者の心理状態の変化</li> <li>○ 高齢者の生活状況や質の変化等</li> </ul>			

# 分析と目標

様式4

<b>5.倫理的配慮 方法および実施日</b>	
A:上司への説明	実施日( 年 月 日)
方法:	
B:実習協力者への説明と同意	実施日( 年 月 日)
方法:	
C:チームへの説明	実施日( 年 月 日)
方法:	
<b>6.分析(理想の姿に近づくために実習協力者に必要と考えること)</b>	
①認知症ケアの知識……理解してほしいこと	
②認知症ケアの技術……できるようになってほしいこと	
③態度・行動……考え方として持っていてほしいこと	
<b>7.自分の評価(リーダーとして指導のあり方を振り返る)</b>	
①できていたこと	
②難しいと思っていること	
<b>8.協力者と面談結果(実習2週目評価結果の共有)</b>	
①いつ、どこで、どう伝えたか？Aさんは、どのように受け止めたか？	
②Aさんの認知症ケア向上のための目標	

# 職場実習日誌

様式5

班	氏名	枚 /	枚中
---	----	-----	----

※ できるだけ具体的な行動や発言などをそのまま記録してください。  
職場での場面や実習計画の各週の実践内容など

年月日 (いつ)	協力者と利用者との場面 協力者と自分との場面	リーダーとして行動した内容 (評価・面談・声掛け)

足りないときは、コピーをしてください。

# 中間報告

様式6

受講生氏名 \_\_\_\_\_ 事業所名 \_\_\_\_\_

連絡先電話番号: \_\_\_\_\_ FAX番号: \_\_\_\_\_

報告期間	R4年11月28日(月) ~ R4年12月2日(金)
報告方法	ZOOM FAX後電話報告 いずれも15分程度
FAX送信するもの	<input type="checkbox"/> 実習計画書様式1 <input type="checkbox"/> 実習スケジュール様式2 <input type="checkbox"/> 評価表様式3 <input type="checkbox"/> 分析と目標様式4 <input type="checkbox"/> その他
予定日時	月 日 時 分
実施した日時	月 日 時 分 ~ 時 分
報告内容	1.協力者の評価方法と評価の分析 2.認知症ケア指導計画書作成の方向性 3.その他、困っている事
指導者と話合った内容 (箇条書き可)	

【指導者事業所名】

連絡電話:

【指導者名】

連絡FAX:

【E-メール】

# 認知症ケア指導計画書

様式7

受講番号		氏名	
事業所・施設名			

≪Aさんの認知症ケア向上の目標≫ (様式4 8-②を書く)

	指導課題	優先順位	指導目標 (1か月後の目標)	期間	具体的方法
認知症ケアの知識					
アセスメント					
介護方法					
介護評価					

<実施上の留意事項 (特記すべきことがあれば記入する) >

# 令和4年度【 職場実習 報告書 】

様式8

氏 名		班	作成日	令和 年 月 日
所属事業所名			指導者氏名	
実 習 期 間	令和 4 年 月 日 ~ 令和 年 月 日			
1. 職場の課題(動機・背景・目的)				
2.実習内容(確認評価の方法・評価結果・協力者との共有)				
3.協力者と面談内容(4週目)				
4.自職場実習により変わったこと(事実:思う。考える。を使わない)				
①自分自身について				
②協力者について				
③職場内について				
5.考察:実習を通して思ったこと。感じたこと。				
6.今後の課題や今後取り組みたいこと				
7.職場上司の評価……実習を通してコメントをお願いいたします。				
役職		氏名		



# BPSDへの介護能力評価表

参考資料1

	評価対象項目	評価する内容のとらえ方(例)	BPSDに関する具体的な内容
認知症ケアの知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 認知症に関する昨今の施策の動向や内容</li> <li>○ パーソンセンタード・ケア等の基本理念等に関する基本的な知識</li> <li>○ 認知症の定義や診断基準</li> <li>○ 原因疾患の種類と特徴、中核症状、薬物療法等についての認知症に関する基礎知識</li> <li>○ BPSDの定義、BPSDの種類と特徴、BPSDに関連する要因の種類と関係、原因疾患別のBPSDの特徴等に関するBPSDに関する基礎知識等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症の種類とそれぞれの特徴を理解しているか</li> <li>●認知症の種類によって生じやすいBPSDについて把握しているか</li> <li>●BPSDの発症要因について理解しているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症の種類に応じた特徴について</li> <li>●認知症の特徴に応じた一般的な対応について</li> <li>●認知症の種類（原因疾患）によって中核症状にも特徴があり、発現しやすいBPSDがあること</li> <li>●BPSDは主に中核症状を基に、さまざまな要素が相互に作用することで起こること、それには個人差があること、背景を探ることが重要なことなど</li> </ul>
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 認知ケアへの目標の設定(BPSDへの緩和だけでなく予防を視野に入れた生活目標の重要)</li> <li>○ 認知症ケアに必要なアセスメント視点 BPSD 種類、程度の評価、発症時の表情、行動、発、発症時の高齢者の状態、低下している認知機能や程度、正常な認知機能、周囲の環境(住環境、刺激等)、他の高齢者、家族、職員等との関係状態や個々の人間関係の特徴過去、現在の生活状況(ADL,目標、活動、生活スタイル、趣味、嗜好等)等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症の種類や原因疾患について必要な情報を収集できるか</li> <li>●利用者一人ひとりの生活歴や既往歴などの情報を収集できるか</li> <li>●収集した情報を整理し、表出した症状と関連づけて分析できるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症の種類や原因疾患についての情報収集能力</li> <li>●認知症の原因疾患の背景にある生活習慣等についてや考え方・趣味や余暇の過ごし方、人間関係の持ち方やコミュニケーションの傾向など（個人要因）を分析する能力</li> <li>●既往歴や服薬状況などの情報から、日常生活動作（ADL）や手段的日常生活動作（IADL）などの身体機能や可能な活動について、また起こりやすい体調の変化など（身体的要因）をアセスメントする能力</li> <li>●これまでの生活環境や生活習慣などの情報から現在の生活環境（部屋の状況・照明・音・広さ・匂い・人数等）との差異（環境的要因）を分析しBPSDとの関連を推測する能力</li> <li>●BPSDが表出した際の対応方法を検討する能力</li> <li>●BPSDが表出した際の前後の状況や職員・ほかの利用者とのかかわり方など、ほかの職員からの情報も含めて、関連づけて分析・検討する能力など</li> </ul>
介護方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医師、看護師、PT、OT等と協力し、身体的な要因を緩和する等の調整方法</li> <li>○ コミュニケーション方法</li> <li>○ 住環境や刺激の調整方法</li> <li>○ 心理的な安定、健康管理、環境適応の促進、意欲の向上等を実現するための活動機会の提供方法</li> <li>○ 他の高齢者、家族、職員との関係状態に応じた関係性の調整方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●利用者ごとに、推測される背景に応じた対応方法を提供できるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症の種類や原因疾患に応じて、利用者に適した対応ができる。</li> <li>●利用者の背景（個人的要因・身体的要因・環境的要因）を踏まえた活動などが提供できる。</li> <li>●利用者の個別性に応じてわかりやすい言葉で対応できる</li> <li>●利用者の個別性に応じて納得を得られる対応ができる</li> <li>●利用者の個別性に応じてBPSDの原因と思われる事象への対応ができる など</li> </ul>
介護評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ BPSDの頻度や重症度の変化</li> <li>○ 高齢者の心理状態の変化</li> <li>○ 高齢者の生活状況や質の変化等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の行ったケアを客観的に振り返る事ができるか</li> <li>●ほかの職員との情報共有や協働ができるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対応前後の利用者の様子（行動面・心理面）について客観的に振り返り、比較できる</li> <li>●自分の対応が、利用者の背景（認知症の種類・生活歴・個人的要因・身体的要因・環境要因）を踏まえたものであったかどうか、客観的に判断できる。</li> <li>●自分の行ったケアを振り返って、うまくいった点や関連すると思われる事項、今後の改善点等を日々、記録し、ほかの職員と共有できる。</li> </ul>

# 食事・入浴・排泄等への介護能力評価表

参考資料2

	評価対象項目	評価する内容のとらえ方(例)	食事・入浴・排泄等の介護に関する具体的な内容
認知症ケアの知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 認知症に関する昨今の施策の動向や内容</li> <li>○ パーソンセンタード・ケア等の基本理念等に関する基本的な知識</li> <li>○ 認知症の定義や診断基準</li> <li>○ 原因疾患の種類と特徴、中核症状、薬物療法等についての認知症に関する基礎知識</li> <li>○ BPSDの定義、BPSDの種類と特徴、BPSDに関連する要因の種類と関係、原因疾患別のBPSDの特徴等に関するBPSDに関する基礎知識等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実際に活かせるかどうかは関係なく、一般的な知識をもっているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●それぞれの生活行為を行うことの意義(食事の場合：栄養摂取、満足感、楽しみ)</li> <li>●それぞれの生活行為を行うために必要な、記憶・注意・物を認識する能力・実行機能などの認知機能に関する知識</li> <li>●疾患ごとに、また重症度によって現れる生活行為の支障のパターン</li> <li>●自具などの福祉用具の知識</li> <li>●環境整備に関する基本的な知識(心地よい雰囲気づくり、物の認識を助けたり動作などに集中しやすい環境)など</li> </ul>
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 認知ケアへの目標の設定(BPSDへの緩和だけでなく予防を視野に入れた生活目標の重要)</li> <li>○ 認知症ケアに必要なアセスメント視点(BPSD種類、程度の評価、発症時の表情、行動、発、発症時の高齢者の状態、低下している認知機能や程度、正常な認知機能、周囲の環境(住環境、刺激等)、他の高齢者、家族、職員等との関係状態や個々の人間関係の特徴過去、現在の生活状況(ADL、目標、活動、生活スタイル、趣味、嗜好等)等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個々の利用者に対して、認知症ケアの知識等を活用して、実際に必要な情報を収集できるか。</li> <li>●集めた情報を整理・分析して課題や目標を設定できるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知機能のアセスメントを行う能力</li> <li>●ふだんの実行状況を把握するだけでなく、最大限の能力を発揮すると何をどこまでできるのを見きわめる能力</li> <li>●「食事」「排泄」と大きな括りでとらえるのではなく、生活行為を複数の工程に分けて観察・分析する能力</li> <li>●現在はできなくても今後できるようになる可能性を見きわめる能力</li> <li>●それぞれになじんだやり方や好みについて把握する能力</li> <li>●自分でアセスメントでなくても、ほかの職員から教えてもらって把握する能力など</li> </ul>
介護方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医師、看護師、PT、OT等と協力し、身体的な要因を緩和する等の調整方法</li> <li>○ コミュニケーション方法</li> <li>○ 住環境や刺激の調整方法</li> <li>○ 心理的な安定、健康管理、環境適応の促進、意欲の向上等を実現するための活動機会の提供方法</li> <li>○ 他の高齢者、家族、職員との関係状態に応じた関係性の調整方法等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個々の利用者に対して、本人のもつ能力を最大限に発揮してもらいつつ、心地よく生活行為を遂行してもらう技術があるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相手に好印象をもってもらえるようなコミュニケーション技術</li> <li>●利用者のペースに合わせてながらスムーズに介助する技術</li> <li>●わかりやすく説明をする技術(伝わりやすい説明の仕方、声の大きさ、間のとり方、適切な立ち位置、声かけが多いと混乱する人には最小限にする等)</li> <li>●できる動作を引き出す技術(手をとって動作を促す、物を認識しやすく呈示するなど)</li> <li>●利用者に合わせて周囲の音や視覚的な刺激の量や質を調整する技術</li> <li>●羞恥心やプライバシーに配慮して介助を行う技術など</li> </ul>
介護評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ BPSDの頻度や重症度の変化</li> <li>○ 高齢者の心理状態の変化</li> <li>○ 高齢者の生活状況や質の変化等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の行ったケアを客観的に振り返ることができるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●かかわりの前後で生活行為の行い方の質の変化を比較できる(行えた動作やかかった時間の変化、表情や発言内容の変化など)</li> <li>●自分の行ったケアを振り返って、うまくいった点や今後の改善点等を明確にし、日々のケアを記録することができる。</li> </ul>

# 指導計画書

参考資料3 記入例

受講番号		氏名	
事業所・施設名			

＜Aさんの認知症ケア向上の目標＞（様式4 8-②を書く）

	指導課題	優先順位	指導目標 (1か月後の目標)	期間	具体的方法
認知症ケアの知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症ケアの理念や考えかあの知識不足</li> <li>●本人の視点から見た尊厳の保持の重要性の理解</li> <li>●不適切なケアや回避方法の知識不足</li> </ul>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症ケアの理念や尊厳の保持の重要性を理解する。</li> <li>●不適切なケアやその回避方法(コミュニケーション)を学ぶ。</li> </ul>	○月○日 ～ △月△日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●参考となるテキストから該当箇所を読んでもらう。</li> <li>●学んだ内容について、質問して理解を確認する。</li> </ul>
アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本人の気持ち(行動の理由など)を確認していない。</li> <li>●アセスメントの必要性の理解不足</li> <li>●本人の行動に関係している要因を分析していない。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本人の気持ちを確認(推測)する。</li> <li>●本人の行動に関係する要因を分析することができる。</li> <li>●本人の行動の特徴(前後の状況を含む)を確認できる。</li> </ul>	△月△日 ～ □月□日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●そのときの本人の気持ちを聞くように促す。</li> <li>●「ひもときシート」の項目等を示して、要因を分析する方法を伝える。</li> <li>●観察した経過を介護記録に残し、確認するように伝える。</li> </ul>
介護方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本人の思いを受け止めた対応や適切なコミュニケーションができていない。</li> <li>●アセスメント結果に基づく介護を実践していない。</li> <li>●多職種との連携が不足している。</li> <li>●チームケアの理解が不足している。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本人の思いを受け止めた対応や適切なコミュニケーションができる。</li> <li>●アセスメント結果に基づく介護を実践できる。</li> <li>●多職種との連携ができる。</li> <li>●チームケアを意識し報告・連絡・相談ができる。</li> <li>●介護評価を視野においた観察ができる。</li> </ul>	△月△日 ～ □月□日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実際の現場でコミュニケーションの方法を見せ、フィードバックを行う。</li> <li>●コミュニケーションをとってもらい、フィードバックを行う。</li> <li>●アセスメントに基づく要因の改善を図ることを促す(環境、活動、生理的欲求など)</li> <li>●機能訓練指導員に身体機能を評価してもらうように伝える。</li> <li>●送迎時に得た情報を生活相談員に報告するように伝える。</li> <li>●介護評価に必要な観察と記録について一緒に確認する。</li> </ul>
介護評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護の結果、本人の状態等に変化があったかを確認していない。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護の結果、本人の状態等に変化があったかを客観的に確認できる。</li> </ul>	◇月◇日 ～ ■月■日	<ul style="list-style-type: none"> <li>●かかわりの前、途中、後の行動や発言の頻度、様子など変化の記録をするようにする。</li> <li>●記録を基に、一緒に結果の評価を行う。</li> </ul>

＜実施上の留意事項＞